

高知工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	長期インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	6221			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 4		
開設学科	ソーシャルデザイン工学専攻			対象学年	専2		
開設期	集中			週時間数			
教科書/教材	事前研修はプリント配布						
担当教員	安川 雅啓,吉田 正伸,奥村 勇人,立川 崇之,岡田 将治,池田 雄一,長山 和史						
到達目標							
1. 社会との連携した学習や研究などの協働活動をととして、専門的視点から実習内容を説明できる。 2. 技術者が社会に負っている責任と独創性を認識できる。 3. 協働活動をととして自己の役割を理解するとともに他者に適切に働かけるためのコミュニケーションができる。 4. 企業活動を通じて、自らのキャリアデザインができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	社会人として必要な自主性、創造性、社会性等を理解し、的確に行動できる。		社会人として必要な自主性、創造性、社会性等を理解し、行動できる。		社会人として必要な自主性、創造性、社会性等を理解できない。		
評価項目2	実習計画に沿って実習を行うとともに実習日誌の作成を通して日々の実習内容を振り返り、自己啓発することができる。		実習計画に沿って実習を行うとともに実習日誌の作成を通して日々の実習内容を振り返ることができる。		実習計画に沿って実習を行うとともに実習日誌の作成を通して日々の実習内容を振り返ることができない。		
評価項目3	インターンシップの成果を報告等で報告でき、課題解決に向けた提案ができる。		インターンシップの成果を報告書等で報告できる。		インターンシップの成果を報告書等で報告できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (E) 基準1(2)の知識・能力 基準1(2)(a) 基準1(2)の知識・能力 基準1(2)(b) 基準1(2)の知識・能力 基準1(2)(g)							
教育方法等							
概要	長期インターンシップは、本校と高知県工業会における「産学協同教育・研究に関する協定書」に基づき実施する。専攻科の学生を工業会の会員企業において就業体験させることにより、実践的技術者として育成するとともに、開発力を具えた創造的技術者としての資質向上を目的として産学協同教育を行う。【クラス分け方式】						
授業の進め方・方法	・実施内容：産・学協同で事前に作成した教育プログラムの内容により実施する。 ・実施のための組織：実施に当たって、本校に企業等との調整を担当するコーオペ担当教員及び学生の教育・研究等の指導を行う指導教員をおく。なお、学生派遣に当たっては、受け入れ企業等の担当者と事前に詳細な打ち合わせを行う。 ・研修企業の決定 ・担当教員・企業担当者との実習内容等の確認 ・企業等における実習、報告書の作成・発表準備 企業等における実習は、1日8時間、週5日の場合、3週間以上、120時間以上とする。						
注意点	実習報告書、評価書の内容、事後報告会での発表内容を中心として成績評価を合否で行う。 実習期間中は傷害保険に必ず加入すること。実習先等に迷惑をかけないよう、ルール・マナーを守って行動すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	事前学習：事前ガイダンス		社会人として必要な自主性、創造性、社会性等の基本を身につける。		
		2週	インターンシップ機関での実習（120時間以上）、		実習計画に沿って実習を行うとともに実習日誌の作成を通して日々の実習内容を振り返る。		
		3週	事後学習：実習終了後、実習報告書を作成する。		インターンシップの成果を報告書等で報告できる。		
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					

		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	4	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	4	
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	4	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	4	
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	4	
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	4	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	4	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	4	
				企業には社会的責任があることを認識している。	4	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	4	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	4	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	4	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	4	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	4	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げるができる。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	4	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	4	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	4	

評価割合

	実習評定書	実習日誌・報告書	発表	合計
総合評価割合	40	30	30	100
基礎的能力	10	10	10	30
専門的能力	10	10	10	30
分野横断的能力	20	10	10	40